



[フィリピン セブ島での ボランティア 報告（海上スラム編）]

はじめに

- 2019年2月フィリピンセブ島でのボランティア活動の資金として、私たち明誠高校インターアクトクラブ及びセブ島留学チームは街頭での募金を始めました。2015年9月国連において採択された「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」の具体的行動指針である、『SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標』の達成のため、そして理念である「No one will be left behind」～「誰一人取り残さない」を实践するべく活動の緒につく日でもありました。お陰様を持ちまして多くの方のご協力により ¥100,000 の資金を調達することができました。以下にその活動の報告をさせていただきます。

[寄附団体 : The Seo-Jong New Life Church]



20,000 ペソ 日本円でおおよそ 40,000 円の寄付を致しました。

- Manobo tride という部族が住む海上スラムに対して支援を行っている団体（個人）であり、他のNGOによる支援がストップしているため、かなり困窮している。今回は非常に危険である橋の修復、教会の基礎修復にたいして支援を行うこととした。

海上スラム ボランティア活動（スラムの実態と日々のボランティア活動）



セブとマクタンをつなぐ橋のたもとに貧困層の人たちが住む海上スラムがあります。



この海上スラムの道が、この橋板になります。



このスラムに教会があります。



150 家族以上がこのスラムに住みます。生活環境は見ての通り劣悪です。



満潮になると海面が橋板スレスレまで来るそうです。



教会の牧師がこのスラムの長の役割を担います。



教会では毎週日曜日にこのスラムの子どもたちを対象に「炊き出し」を行なっています。



教会はこのスラムの大事な集会所として、また、食事を提供する場所としての役割があります。

今回、日本人グループとしてこの教会で活動しました。子どもたちに楽しい時間と食事を提供する活動です。130名ほどの子どもたちが集まりました。教会のキッチン借りてそばろご飯を作りました。

はじめてのそばろご飯だったので、私達も心配したのですが・・・



子どもたちは喜んで食べてくれました。



子どもたちを集めゲームもしました。楽しい時間を提供できました。



キレイとは言い難い海水でも子どもたちは平気で泳ぎます。強さを感じました。



現状から修復まで

全てをつなぐ橋がとても危険な状態です。教会を支える基礎部分も非常に危険な状態です。

修復までの作業

<p>資材を運びいれている様子</p>	<p>修復前</p>	<p>竹の橋を補強した状態</p>	<p>家の下から海に伸びる柱を補強 防水加工のペンキを塗っています</p>	<p>基礎の補強工事 セメントを流し固める (干潮時のみ作業可能)</p>

修復前



修復後



修復前

教会のキッチンの壁と屋根
壁も無く子供が落下する事故もよくあった



修復後

基礎と壁とドアを新調しました。





アクティビティの様子（修復後の教会にて）

- ユネスコ協会の児童絵画展に出展することになったので、「世界平和」というテーマで絵を描いてもらっているところです。



感謝

私たちは SDG s 達成のために、その理念である「誰一人取り残さない」を共通の認識として、
自らが出来ることを積極的に行うことを決断しました。

少子高齢化が進むこの益田市をどこからも取り残されない様に地域活性化のためにも立ち上がり
様々な取り組みもして行きます。

海外にも飛び出し、今出来ることを行うことにしました。今後も継続的にボランティア・支援を行い
理念である「誰一人取り残さない」そんな世界が、そして未来を描ける様頑張っていきたいと思ひます。

終わりにになりましたが、この度の活動に対してご協力いただきました全ての方に感謝を申し上げ
そして、更なるご協力を賜れる様、日々頑張っていきたいと思ひますので、今後とも応援宜しくお願ひ
致します。

2019年7月

明誠高等学校 インターアクトクラブ及びセブ島留学チーム一同